

第6回鳥取市市政改革推進市民委員会・議事概要

日 時：令和3年5月27日（木） 午後3時00分から午後4時05分

会 場：鳥取市役所 本庁舎6階 6-3会議室

出席者：《委員》10名出席

山下 博樹 委員長、河崎 誠 副委員長、川口 有美子 委員、竹本 剛 委員、
田村 康悦 委員、中井 みずほ 委員、村尾 昌彦 委員、若山 敬之 委員、岸 舞 委員、
奥村 稀良 委員

《鳥取市》

行財政改革課：河口次長、谷口主査、若田主任、平野主任

会議内容

1. 開会

2. あいさつ

委員長：

例年よりも早く梅雨に入り、すっきりしない天候の中での委員会になってしまったが、今回から、委員会の内容も次のステップに入っていこうとしている。また皆様のご協力をいただきたい。

3. 委員委嘱

松本副委員長の辞任に伴い、新たに若山敬之氏に委員を委嘱

4. 副委員長の選任

副委員長 河崎 誠 委員 を選出

副委員長：

やることは変わらないが、今まで以上に委員長を支えて頑張っていきたいと思う。よろしくお願ひしたい。

5. 議事

鳥取市市政改革プランについて（①進捗状況の報告について）

事務局：

（資料1を説明）

委員長：

資料1-1の下段、柱2のビデオ会議・ウェブ会議等の開催数について、元々コロナ以前から取り組む予定だった中で、コロナの影響で極端に数が増えたということだと

思うが、コロナが終息した後は逆にこれまでオンラインでやってきた会議を元に戻す形になるのか。オンラインでやるものと対面でやるものと、どのように整理していくのかというのが次の課題になると思う。数が増えたから一概に良かったということだけにもならないのではと思った。

副委員長：

資料1-2の通し番号の51番について、成人式がなくなって広告掲載は先延ばしになったということだが、こういう際の人員は違う業務につくのか。どういう業務の割り当てをされるのか。

事務局：

成人式の業務だけを専任でしていた職員はおそらくおらず、他の業務と兼務をしている。他の業務を手厚くしたり別の業務に従事したりしており、何もない期間ができたということではない。

鳥取市市政改革プランについて（②二次評価について）

事務局：

（資料2、資料3を説明）

委員長：

資料3-1の（2）で委員会を2つのグループに分けるという説明があったが、グループを2つに分けて具体的にどうするのか、その部分の補足説明をいただきたい。

事務局：

実施計画について全部で73計画あるが、今回のグループ分けでは、柱1、2が1グループ、柱3がもう1グループという形で、この10人の委員を2つに分けたいと思っている。各グループの委員がそれぞれ二次評価をした後、第7回委員会でグループごとに分かれて、二次評価の中身を検討していただくという流れになる。

委員長：

以前は全員が全計画を二次評価していたが、項目がたくさんあって時間のかかる作業だった。もう少し負担の少ないやり方ができないかということで、今回はこういう形で半分ずつに分けて担当を決め、同じところを担当した方同士で意見交換等の時間をとりながらできたらいいのではないかという話である。以前は全員で同じだけ見て、妥当と妥当でないがそれぞれ何人という、集約だけがメインだったが、もう少しこの辺をきめ細かく行うという意図もある。

資料3-3だが、他自治体の事例研究を行うという単年度計画に対し、進捗状況には他自治体の事例研究を行ったと書いてあるが、例えばどれぐらいしたのかといった記述が乏しいと、見る人によってはこれだけでは分からないという人もいるのではと思う。そういうところを皆さんの感覚で、この進捗状況の説明で単年度計画が本当にできているのかどうか、或いはそれを実施した担当課で適正に評価できているかどうかを

確認していく作業をしてもらうということになる。

副委員長：

改めての確認になるかもしれないが、資料3-2の表の赤枠の進捗度評価と担当課自己評価に対する評価をするということによいか。

過去の委員会でも何度か意見があったと思うが、評価の妥当性に関するところの評価であるということで、例えばその計画自体が、なぜこんなことするのだろうかという計画であっても、その計画に沿った進捗度が正しく評価してあれば、それは妥当であるという評価をしたらいいということによいか。

事務局：

あくまでここは担当課が行った一次評価の妥当性を見ていただくという作業になる。今言われたような、計画そのものがどうかというものがあれば、今年度の後半にあるヒアリングの対象にするといった検討もグループワークの中でしていただくということもあるかもしれない。

委員長：

当面のグループワークとしてその妥当性のところだけに限定するというのでいいと思うが、活動報告書にも盛り込むということを考えているのであれば、一度見た時に気づいたことをどこかに記録で残しておかないと二度手間になる。例えば参考資料1のシートの右側に、気づいた点や課題といった欄を作ってもらい、妥当性以外のところで気づいたことがあればそこにメモしてもらえばいいかと思うがいかがだろうか。

事務局：

おっしゃる通りだと思う。気づいたことや課題といった枠を追加するので、計画そのものについて思ったことがあればそちらに入れていただきたい。

A委員：

資料3-3を見ると、例えば単年度計画に項目が3つある中でできていないものが1つあるが、事業全体の進捗としては概ね計画通りとされている。これが課によっては計画より遅れているとされるなど、課ごとに目線が違っていると評価する方も混乱するのではないかと。全体としての目線合わせはしているのかというところが気になった。

事務局：

一次評価の際に、入力マニュアルを各担当課に送付しており、それを基にそれぞれ評価をしているが、担当課によってレベル感が若干違うというのはあると思う。遅れている理由や概ね計画通りと評価している理由が分かるように入力されているかどうかを見ていただき、納得のいく説明になっていないものがあればそれは妥当でないという判断にも繋がってくると思うので、そういった客観的な目線で二次評価をしていただけたらと考えている。

委員長：

我々の解釈で判断していけばいいかと思う。例えば資料3-3で、他自治体の事例研

究と先進自治体の視察というのは次元の違うものだから事例研究をたくさんやったからといって視察をやったことにはならないのではないかと、思えば、計画通りではないという判断になるし、その事例研究を研修で補ったと読み取れたのであれば、このBという評価でいいという判断の仕方になると思う。

B委員：

例えば資料3-3で言えば、最終的な目的として、実施計画の内容の上から2つ目の枠にある「目指す姿（実現する内容）」を実現するために、単年度計画で具体的にやるべきものを3つ挙げていて、実施しているという見方でよいか。私たちが評価の妥当性を見る時も、この目指す姿を実現するために昨年度にどんなことをやってどう評価されているのかを評価するということでよいか。

委員長：

今回は、最終的に目指す姿に向けて5年間かけてやる中の、1年目の取り組みが計画通りにできたのか、それが正当に評価されているかを見る。目指す姿には全然辿り着いていない可能性があるが、初年度としていろんなやり方で取り組んで、できなかった部分については他のやり方で補っているかも含めてこういう評価でどうかという担当課からの提案、そこがどうなのかということかと思う。

鳥取市市政改革プランについて（③グループ分けについて）

事務局：

参考資料2も参考にしながら二次評価のグループ分けをしていただきたい。決め方については委員の皆さんにお任せするが、委員長、副委員長にはグループワークでの進行役をお願いしたいので、委員長、副委員長は別々のグループに分かれていただきたい。

委員長：

柱1、2を担当するグループをAグループ、柱3を担当するグループをBグループとして分けていきたい。

Aグループ（柱1・2）：山下委員長、川口委員、中井委員、村尾委員、奥村委員

Bグループ（柱3）：河崎副委員長、竹本委員、田村委員、若山委員、岸委員 に決定

委員長：

二次評価はこのグループごとにしていただくことになる。次回以降に皆さんの評価を持ち寄ってもらい、グループごとに共有して場合によっては修正といった作業をするのと、自分が担当しなかったグループがどんな状況だったのかを全体で共有して、ここにいるみんなが全73計画の二次評価がどのようにされたのかということ共有できるようにしていきたいと思う。

6. その他

事務局：

これからグループごとに本格的な作業をしていただくことになる。どうか市政のために思ったことを書いて評価していただけたらと思う。

本日いただいたご意見の補足をすると、まず委員長からオンライン会議をこれからどうするのかというご意見があった。直近だと、市議会議員へタブレットの導入を予定しており、これまで資料提供に要していた用紙が削減できる見込みである。会議もこのタブレットを使うということなので、オンラインでの会議はこれからもどんどん進めていきたいと考えている。

それから成人式の話があったが、今年度は、昨年度できなかった成人式を9月19日に布勢の県民体育館で行うことになった。また、今年度成人を迎える方については今まで通り県民文化会館で1月に行う予定である。昨年度は、成人式だけではなくしゃんしゃん祭りも中止しており、職員の業務量が減ったということは確かだが、一方で、コロナ対策で疲弊している保健所に兼務を多くかけたり職員を増やしたりしている。今後も流動的に人を動かしながらやっていきたいと考えている。

これから作業していただく二次評価については、進捗管理だけではなく、計画がそもそもどうなのかといったご意見もあれば書いていただき、担当課にフィードバックをして、最後の活動報告書に盛り込めるような体制で臨みたいと思っている。どんなご意見でもよいので気づいたことがあれば書いていただきたい。ご意見のあった評価の目線合わせや、目指す姿との兼ね合いというのも必要な視点だと考えているので、評価の際にはそれらの視点で見ただけたらと思っている。また、目指す方向は何なのかという視点で、できなかった代わりに何をしたのかが重要なポイントだと思っている。書いてある内容で分からなければ担当課から追加で説明もできると思うので、大変ではあるがよろしくお願ひしたい。

委員長：

二次評価用のデータや評価入力シートは後日送付されるのか。

事務局：

グループの内訳と併せて後日メールで送らせていただく。

副委員長：

コロナ禍でこの委員会をオンラインですするという話はあるか。

事務局：

オンライン会議については皆さん全員のお手元にインターネット環境が整っているかどうか課題になってくると思っている。ペーパーレスという意味では、例えば会議用の端末をそれぞれ用意させていただくということも検討している。

委員長：

コロナでオンライン会議が増えているが、相手を見てうまくコンタクトができない

となかなか発言しにくい。ただ司会だけがしゃべって周りがしーんとしているような会議が増えているので、この委員会がうまくフィットするかどうかやってみないと分からないが、これだけ広いスペースでこの人数でできるのであれば何とか対面でできたらと思っている。

副委員長：

環境がどうなっていくか分からない中で、対面での会議ができなくなった場合の対応はどうするのかと思い、尋ねたものである。

委員長：

では、今日はこれで終わりにしたいと思う。ありがとうございました。
